

## 金利リスクに関する事項

### [自己資本比率規制（バーゼルⅡ）に関する事項]

(単位：百万円)

運用勘定			調達勘定		
区分	金利リスク量		区分	金利リスク量	
	平成20年9月末	平成21年9月末		平成20年9月末	平成21年9月末
貸出金	1,258	1,260	定期性預金	1,196	1,221
有価証券等	11,935	12,049	要求払預金	867	886
預け金	144	104	その他	1	1
その他	20	6			
運用勘定合計	13,357	13,420	調達勘定合計	2,064	2,108
銀行勘定の金利リスク	11,293	11,312			

(注)

1. 要求払預金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される要求払預金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する預金をコア預金と定義し、当金庫では、普通預金等の額の50%相当額を2.5年としてリスク量を算定しています。
2. 銀行勘定の金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定します。
  - ・平成20年9月末 銀行勘定の金利リスク (11,293百万円) = 運用勘定の金利リスク量 (13,357百万円) - 調達勘定の金利リスク量 (2,064百万円)
  - ・平成21年9月末 銀行勘定の金利リスク (11,312百万円) = 運用勘定の金利リスク量 (13,420百万円) - 調達勘定の金利リスク量 (2,108百万円)

### ●アウトライヤー比率 [平成21年9月末]

$$\frac{\text{銀行勘定の金利リスク量 (11,312百万円)}}{\text{単体自己資本総額 (42,126百万円)}} \times 100 = 26.85\%$$

○自己資本総額 = 「基本的項目」 + 「補完的項目」

銀行勘定における金利リスクは、金融機関が保有する資産・負債のうち、市場金利に影響をうけるもの（例えば、貸出金、有価証券、預金等）が、金利ショック（金利の変動(衝撃)）により発生するリスク量をみるものです。また、アウトライヤー比率は、金利リスクが自己資本に対してどの程度の割合を占めているかを計測する比率です。

### ●リスク管理について

当金庫は、地域経済を支える資金の供給者として、貸出市場での信用リスクを最大限負担する役割を果たすため、ALM（資産負債総合管理）の視点から、市場性の資金運用におけるリスク管理においては、信用リスクと流動性リスクの極小化を優先しておりますので、リスク・ウェイトの低い国内債を中心に、比較的コントロールのしやすい金利リスクの比重が高いアセットアロケーション（資産構成）を選択しております。

よって、金利リスクを量的に示すアウトライヤー比率は、当金庫にとりまして適切な範囲にとどまっていると判断しております。  
※有価証券については、本誌9ページに掲載しております。

## 法令等遵守の体制

コンプライアンス（法令等遵守）とは、法令やルールを厳格に遵守することはもとより、さらには社会的規範を全うすることをいいます。

金融機関にはその社会的機能から高い公共性を求められており、コンプライアンスへの取組みが一層重要となっております。

当金庫では、「法令等遵守委員会」を設置し、さらに「リスク管理・コンプライアンス統括室」を設置し、法令等遵守の体制強化に努めております。また「稚内信用金庫行動綱領」、「法令等遵守マニュアル」、「公益通報者保護に関する規程」を制定し、役職員一人一人が地域金融機関としての社会的使命と高い公共性を常に自覚するとともに、責任ある健全な業務運営の遂行に努め、法令等遵守の浸透・定着を図っております。

また、毎年度コンプライアンスを実現するためのコンプライアンスプログラムを策定し、「コンプライアンス教育研修」等を実施しております。